

## 第 259 回 所沢市の秋草芳雄・かつえ夫妻像とフォール大佐像

筆者：林 久治（記載：2023 年 12 月 17 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいたので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 10 月 28 日から 11 月 6 日まで大阪に滞在していた。その間、天候は良く暖かかったので、私は孫達とよく遊ぶことが出来た。また、予めから狙っていた銅像が近畿地方に沢山あったので、それらの幾つかを探索することが出来た。その探索記は次の通りである。箕面市の北原怜子像 ([253 回の記事/f](#))、京都市南区の長谷川繁雄・靖子夫妻像と松下幸之助像 ([254 回の記事/f](#))、東山区智積院の稚児大師像と玄宥僧正像及び上京区廬山寺の紫式部像 ([255 回の記事/f](#))、及び伊丹市の北野祐次像 ([256 回の記事/f](#))。

東京に帰ってからも、毎週末には運動を兼ねて銅像探索に行っていたが、空振りが多かった。私は 11 月 24 日に学園祭（一橋祭）が開催された一橋大に行き、磯野研究館の磯野長蔵像を探索した。その探索記を [257 回の記事/f](#) に記載した。次に、私は 12 月 1 日に東工大の百年記念館の手島精一胸像と祐天寺駅そばにある守屋善兵衛像を探索し、それらの探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

大学の学園祭の季節もそろそろ終了である。[3\) のサイト/7](#) によれば、所沢市の秋草学園短期大学の大学祭（秋草祭）が 12/16（土）と 12/17（日）に開催される。私は本学には創立者の秋草芳雄・かつえ夫妻像があることを知っていた。本像は [1\) のサイト/](#) には収録されていないので、私は秋草祭の開催日を狙っていた。そこで、12 月 16 日に本学に行ってみた次第である。そのついでに、所沢航空記念公園にも立ち寄って、そのフォード大佐像も探索した。本像は [1\) のサイト/](#) には収録されてはいるが、掲載写真が不鮮明で、銅像の情報も殆ど記載されていないので、本像も探索した次第である。本稿は、それらの探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

### （2）秋草学園短期大学の秋草芳雄・かつえ夫妻像

次ページの図 1 上に、秋草学園短期大学の周辺地図を示す。本学は西武新宿線の航空公園駅から、線路沿いに徒歩で約 10 分の場所にあった。

（本文は、3 ページに続く。）



図1. 上：秋草学園短期大学の周辺地図、下：秋草学園短期大学の秋草祭。



図1下に、秋草学園短期大学（埼玉県所沢市泉町1789）の学園祭（秋草祭）の様子を示す。私の期待通りに、本学に入構することが出来た。[4\) のサイト/](#)と[5\) のサイト/](#)には、本学の沿革が次のように書かれている。

- 1949年：東京都中野区に編物学校として秋草学園を創立、秋草かつえ先生が校長に就任。
- 1952年：「秋草編物技芸学院」を開校、秋草かつえ先生が学院長に就任。
- 1955年：「学校法人秋草学園」を設立、秋草芳雄先生が理事長に就任。
- 1962年：「秋草服装学院」と改称、秋草かつえ先生が学院長に就任。
- 1969年：「秋草保育専門学院」を開校、秋草かつえ先生が学院長に就任。
- 1975年：「秋草栄養専門学院」を開校、秋草かつえ先生が学院長に就任。
- 1978年：所沢本校舎が完成。
- 1979年：所沢市に「秋草学園短期大学（幼児教育学科第一部・第二部）」を開学、秋草かつえ先生が学長に就任。
- 1989年：秋草かつえ先生が秋草学園理事長に就任。
- 2006年：秋草かつえ先生が秋草学園理事長退任、秋草征志先生が秋草学園理事長就任。
- 2017年：北野大先生が秋草学園短期大学学長に就任。
- 2023年：秋草征志先生が秋草学園理事長辞任、北野大先生が秋草学園理事長就任

本学の1階ロビーに入ると2基の胸像が設置されていた。ロビーには、学園祭の受付の人々がいた。私はそれらの一人に写真撮影の許可を申し出て、快諾を得ることが出来た。



図2. 本学の1階ロビーに設置された2基の胸像

2基の胸像の写真を図2に示す。向かって左側の題字には「創設者 秋草芳雄先生」、向って右側の題字には「学祖 秋草かつえ先生」とあった。



図3.

上：秋草芳雄先生の胸像、

下左：秋草かつえ先生の胸像

下右：台座の銘文。



図3上に秋草芳雄先生の胸像を、図3下左に秋草かつえ先生の胸像を示す。図3下右には、台座の銘文を示す。それには、次のように記載されていた。

昭和二十四年十二月十五日 創設 (昭和24年は1949年)

平成三十年三月十四日 建立 (平成30年は2018年)

寄贈 秋草学園短期大学 秋桜会

[6\) のサイト/](#)には、本像建立の経緯と除幕式の様子が次のように書かれていた。

#### ① 寄贈 胸像建立について

秋桜会では、かねてより母校が数年後に創立70周年を迎えるに当たり、総意を以て祝意を表したいと思って参りました。建学の精神である「愛され信頼される女性」の育成に精魂かたむけられ、これまでに数万人の卒業生を世に送り出された秋草学園の創始者である故秋草芳雄先生と、とりわけ直接ご教授頂いた故秋草かつえ先生への想いは、多くの学生がその教えとお人柄に対して深く敬慕の念を抱いて居り、更に叙勲されたことも同窓生一同の誇りで御座います。

この様なことから、先日の当常任理事会にてこのご功績と思慕の念を後に続く後輩に残すためにも、学園創始者元理事長、故秋草芳雄先生と元学園長、故秋草かつえ先生ご夫妻の胸像を創立記念のお祝いとして是非学内に建立したいという意見で纏まりました。現在は詳細検討の段階でございます。先般秋草理事長にお会いして直接秋桜会の意向をお伝えし、賛同を得ました。上記お知らせ申し上げます。 秋草学園短期大学秋桜会

#### ② 故秋草芳雄先生、秋草かつえ先生胸像除幕式

2018年3月14日13時半より玄関ロビーにて、大勢の方が集まり行われました。新聞社も2社見え、60席ほど満員でした。拍手喝采のなか盛大に除幕されました。これからは立派な胸像が学園の玄関ロビーでご覧いただけます。

[7\) のサイト/4](#)には、本像の制作会社名が次のように書かれていた。

株式会社ナガエ アート事業部 銅像胸像製作部門 富山県高岡市荒屋敷 278 番地

秋草芳雄先生と秋草かつえ先生の経歴に関しては、銅像の周辺には説明が無かった。また、本学の資料にも両先生の経歴に関する記載が少ない。[8\) のサイト/7](#)には、次のような記載があった。

秋草かつえ先生ご逝去：平成25年3月13日水曜日午前2時17分、心不全のため。

[4\) のサイト/](#)には、次のような記載があった。

1992年：秋草芳雄前理事長逝去。

私の自宅近くの区立図書館で調べると、人名事典に両先生の誕生日などの僅かな情報しか無かった。以上の資料などにより、秋草夫妻像の概要は次の通りである。

秋草芳雄・かつえ夫妻胸像

設置場所：埼玉県所沢市泉町1789 秋草学園短期大学1階玄関ロビー

制作者：株式会社ナガエ（高岡市）

除幕式：2018年3月14日13時半より玄関ロビー

寄贈：秋草学園短期大学秋桜会

設置経緯：秋草芳雄先生（1916.12.15-1992）は秋草学園短期大学の創設者、秋草かつえ先生（1921.2.25-2013.3.13、栃木県出身）は秋草学園短期大学の学祖。

秋草学園の沿革（3ページに記載）



なお、最近、北野大（まさる、ビートたけしの兄）先生が本学の学長と理事長に就任されている。ウィキペディアなどによれば、北野先生の略歴は次の通りである。

1942年 東京都足立区生まれ

1965年 明治大学理工学部卒業

1972年 東京都立大学大学院 工学研究科 工業化学専攻 博士課程修了

(財)化学物質評価研究機構・企画管理部長から淑徳大学国際コミュニケーション学部教授、明治大学理工学部応用化学科教授を経て、2017年4月から秋草学園短期大学の学長に就任。2023年には秋草学園の理事長に就任。

### (3) 所沢航空記念公園のフォール大佐像

私は秋草学園短期大学で秋草夫妻像を探索した後、航空公園駅に引き返し、駅の反対側にある所沢航空記念公園に行き、そこにあるフォール大佐像を探索した。本像の周辺地図を図4に示す。駅から本像までは、徒歩で約10分であった。途中の所々に園の案内地図があったので、それらを見れば迷わずに本像に到着できた。



図4. 所沢航空記念公園のフォール大佐像の周辺地図、本図は、[9\) のサイト/g](#)より借用。

次ページの図5に、フォール大佐像の周辺写真を示す。本像の前にある白板には、次のような説明書が掲示されていた。

#### フォール大佐胸像

日本にとって航空の黎明期であった大正7年(1918)、陸軍の航空本部長であった井上幾太郎大將は、先進国であったフランスに我が国の航空技術全般の指導を要請しました。

日本からの要請を受けたフランスは、フォール大佐を団長とする技術者63名の航空教育団を大正8年(1919)1月から大正9年(1920)10月までの間、派遣してくれました。

この間、フランス航空教育団は、日本各地で陸軍の将校や技術者に学科と飛行訓練を指導しました。

フォール大佐は、44歳で砲兵連隊長として第一線で活躍しており、フランスの航空部隊の第一人者でした。また、優れた操縦者であり、教育者でもあったので航空教育団の団長として派遣されたと言われています。

日本でのフォール大佐の功績は大きく、日本の「航空の父」と呼ばれ、昭和3年(1928)4月に所沢飛行学校の校庭だったこの地に胸像が建立されました。

しかし、胸像部分と正面プレートは、第二次世界大戦中に接收され、取り外されたままになっていましたが、昭和57年(1982)10月、少年飛行会及び所沢航空資料調査収集する会等の協力を得て、石川県金沢市の水野朗氏制作の原型を基に復元し、所沢市が建立したものです。

なお、現在フォール大佐胸像正面にあるプレートは、フランス航空教育団来日100周年となる平成31年(2019)に、オリジナルの姿に復元したものとして、フランス航空宇宙工業会(GIFAS)から寄贈されたものです。

2019年3月 所沢市 所沢航空資料調査収集する会



図5. フォール大佐像の周辺（胸像前の白板に本像の説明が記載されている）

次ページの図6上には、フォール大佐像を示す。本像正面には、大佐の名前が「GENERAL J. P. FAURE」と刻まれている。ウィキペディア（フランス陸軍の階級一覧）には、次のような名称が記載されている。

大佐：Colonel、将官：Général

本像の座主が来日した時には「大佐」であったが、帰国後に「将官」に昇進している。本像には「GENERAL」と書かれているので、本像の名称は「フォール将軍像」とすべきではないか？

本像の台座正面に貼付されたプレートには、フランス航空教育団の63名全員の名前が書かれている。その冒頭の写真を図6中に示す。フォール大佐はフルネームで「Jacques Paul FAURE」とある。（本文は、9ページに続く。）





図6. 上：フォル大佐胸像、中：台座正面に貼付されたプレートの冒頭部分、  
下：本像側面の制作者サイン。



図6下に、本像側面の制作者サインを示す。それには、「昭和二年 水野朗作」とあった。水野朗の略歴は、[10\) のサイト/1](#)と [11\) のサイト/](#)に次のように記載されている。

①加賀藩では歴代藩主が、金属工芸・漆芸・陶芸職人などの名工を招いた。金属工芸では、中世末期の京都の御用彫金家後藤家が加賀藩前田家から高禄で召し抱えられた。水野家の元祖源次好栄は、武士を捨て白銀師をこころざし、後藤宗家四代後藤光乗に入門し、その次男長乗にも師事した。後藤家が加賀藩前田家から招かれるに伴い、慶長14年(1609)頃、水野源次は後藤家の有能な職人として、家族共々金沢に送り込まれ、五人扶持を得た。幼少の子供達を厳しく仕込んで水野源七・源六の二人ともに御用職人に育て上げた。

②その水野源六家の10代目が水野朗(きよし)であった。朗は、埼玉県出身で旧姓は堀内。金沢の工業学校(現石川県立工業高校)に通うことを条件に水野源六家の養子嗣子になった。朗は平面図案より立体造形に優れていた模様で、工業学校では窯業科製陶部で陶磁塑像を学ぶ。明治三十八年(1905)、ベルギー万国博に出品し名誉賞を受ける。彫刻家を目指し、養父の反対を押し切って東京美術大学(現東京芸術大学)の彫刻科に進学。在学中の明治四十二年(1909)、文部省美術展覧会に彫刻作品を出品し入選。抜群の腕を持っていたが、諸事情により中退。その後も海外で数度受賞を果たし、大正四年(1915)八月、農商務省より二カ年間米国各地の金属工芸視察を命じられる。大正七年(1918)九月、金沢卯辰山日蓮宗善妙寺の日蓮上人銅像を建立。十代朗の絶頂期であった。

③その後大正末期から昭和の初めにかけて金沢市金属工芸協同組合長を勤め、職人集団の一方の旗頭として、衰退する業界の指導に当たるとともに、町方職人系と御用職人・御細工職人系との内紛に巻き込まれ、以降不出品となる。嫡男旺に次第に望みを託すようになるが、長男は五十を過ぎてからの子であったことから焦りもあった模様。晩年は加賀象眼の資料を体系付けることや展覧会で世間を啓蒙することに熱心であった。昭和四十年(1965)全てを息子に託して七十九歳没。

水野朗の生年は記載されていないが、上記の資料に「1965年に79歳で死亡」と書かれているので、生年は1886年頃であろう。



図7. 本像台座背面の銘文

図7に、本像台座背面の銘文の写真を示す。本銘盤は、本像再建時（1962年）に台座正面に設置された。しかし、2019年にプレートが再建された時に、本銘盤は台座背面に移設されたようだ。本銘盤には、以下の記載がある。

この胸像は昭和3年 当時所沢陸軍飛行学校校庭だったこの場所に建立されましたが 戦後取り外されたままとなっていました

この度少飛会有志の御協力により 金沢市の水野朗氏制作の原型を求め復元したものです  
昭和57年10月 所沢市



図8.

1919年にフランス航空教育団が来日した時の団長・フォル大佐の写真、本図は、[12\) のサイト/f](#)より借用。

[12\) のサイト/f](#)には、1919年にフランス航空教育団が来日した時の写真や解説が掲載されている。本記事にあったフォル大佐の写真を図8に示す。また、[13\) のサイト/7](#)には、所沢航空記念公園（所沢陸軍整備学校、少年航空兵像、大正天皇御駐輦之跡、フォル大佐胸像など）の優れた紹介が記載されている。フォル大佐の略歴は、ウィキペディア（Jacques-Paul Faure）や[14\) のサイト/1](#)に記載されている。これらの資料などにより、フォル大佐像の概要は次の通りである。

#### フォル大佐胸像

設置場所：埼玉県所沢市並木1-13 所沢航空記念公園

制作者：水野朗（きよし、1886-1965）は埼玉県出身で、金沢の水野源六家の養子嗣子。

設置時期：1928年（戦時供出）

胸像再建時期：1982年10月

プレート再建除幕式：2019年4月7日（フランス航空教育団来日100周年記念）

設置経緯： ジャック・ポール・フォル砲兵大佐（Jacques-Paul Faure、1869.11.14-1924.8.24、帰国後に少将に昇進）は、フランスの軍人。日本陸軍は航空機導入後、独自に運用・飛行技術の習得に努めてきましたが、第1次世界大戦の欧州戦域における急速な航空近代化を見て、各分野の最新理論や技術の習得が不可欠との結論に達しました。当時、



世界屈指の航空先進国と言われていたフランスから、最新の多様な機種を購入し、同時に教育団を招聘しました。その「フランス航空教育団」の団長がフォール大佐でした。彼が率いる 41 名の先遣隊は 1919 年 1 月 12 日に来日（海路、長崎に上陸）し、8 日後には所沢航空隊を訪問しています。教育団は、いくつかのグループに分かれて日本各地の航空隊に派遣され、それぞれの地で発展途上の日本陸軍航空を担う若い人材の教育に尽力しました。欧州の激しい航空戦を経験したフランス軍人たちの指導は、同年 9 月中旬まで行われましたが、その影響は単に飛行技術や運用法の習得の向上だけに留まらず、組織化や航空機開発まで多岐にわたり、近代化に大きな貢献をしました。

本像の説明書（6-7 ページに記載）

#### 参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：  
[https://www.akikusa.ac.jp/akitan/index.cgi?mode=notice\\_view&key=277](https://www.akikusa.ac.jp/akitan/index.cgi?mode=notice_view&key=277)
- 4) のサイト：<https://www.akikusa.ac.jp/gakuen/history.html>
- 5) のサイト：<https://tokorozawanaavi.com/hito-narita20181023/>
- 6) のサイト：<https://akikusa-kosumosu.jimdofree.com/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E7%8A%B6%E6%B3%81/>
- 7) のサイト：[https://e-douzou.com/results/cat\\_kyozo/jisseki34](https://e-douzou.com/results/cat_kyozo/jisseki34)
- 8) のサイト：[https://mixi.jp/view\\_bbs.pl?comm\\_id=79264&id=74050657](https://mixi.jp/view_bbs.pl?comm_id=79264&id=74050657)
- 9) のサイト：<https://blog-imgs-55.fc2.com/t/a/c/tacky2010/tokorozawakoukuukinennkouenn.jpg>
- 10) のサイト：<https://ameblo.jp/kanazawa-saihakken/entry-10619354251.html>
- 11) のサイト：<https://mizunoclan.exblog.jp/12604899/>
- 12) のサイト：<https://tam-web.jsf.or.jp/wp-content/uploads/TAP08.pdf>
- 13) のサイト：<https://senseki-kikou.net/?p=9447>
- 14) のサイト：<https://rekigun.net/original/travel/statue/extra-03.html>

#### 蛇足（食い歩き）

武漢肺炎は沈静に向かい、私は銅像探索と同時に各地の食べ歩きを再開した。今回は、秋草学園短期大学の近くにあった「とんかつ司」を紹介する。場所は西武新宿線の新所沢駅の近くである（住所：埼玉県所沢市緑町 2 丁目 1-5、次ページの地図を参考）。定休日は毎週月・火曜日。ランチは 12 時開店で、行列が少し出来ていた。1500 円のトンカツ定食が、ランチサービスで 1300 円であった。トンカツは味自慢で肉厚で大きかった。キャベツも美味・大量でしかも食べやく切られていた。値段の面でも掘り出し物であったが、料理が出て来るのが入店して 30 分かかったのが難点。



場所：西武新宿線の新所沢駅近くの「トンカツ司」



1500 円のトンカツ定食が、ランチサービスで 1300 円になる。